

「学校教育自己診断」にご協力を！

例年のとおり、「学校教育自己診断」のアンケート調査を実施します。ご協力をお願いします。

「学校教育自己診断」の保護者用アンケートの質問項目6に「学習評価では、知識・技能の習得状況のみに偏ることなく、児童生徒が考えて表現したり、学習に意欲的に参加したりする姿などがバランスよく評価されている。」とあります。「何のことだろう？」と思われた方も多いのではと思います。新しくこの項目を加えた理由について今回はご説明したいと思います。

“観点別学習評価”って何だろう？

10月に入り学級担任から「個別の指導計画」の前期の評価を保護者の皆さんにお示ししていると思います。学習評価の欄を読まれて、もしかして「少し変わったな」とお感じになった方もおられるのではないのでしょうか？逆に「えっ？なんか変わったの？」という方もおられるかもしれません。

平成29年に告示された新しい学習指導要領では、これまでの知識偏重主義の学力観を改め、「生きる力」に重点を置いた「新しい学力観」が示されています。「知識・技能」だけに偏るのではなく、学習活動の中で得た「知識・技能」を「活用して、考えたり、工夫したり、他者に伝えたりする力」（＝思考力・判断力・表現力）や「主体的に学習に取り組む姿」（＝意欲・態度）が重視されています。

この「知識・技能」「思考・判断・表現」「意欲・態度」の3つがバランスよく学習活動の中で身につくことで「課題を解決する力」＝「生きる力」に結びつくのだということです。

学校ではその3つの力をバランスよく育成していくために授業計画を立て、指導にあたる必要があります。もちろん学習の「評価」も同様にこの3つの観点を踏まえてなされるべきだとしています。

こうした3つの力を育成するという新学習指導要領の考えは支援学校にも求められています。各教員はそれぞれの授業で「知識・技能」「思考・判断・表現」「意欲・態度」の3つの力を育成するためにいろいろな取り組みを行っています。それを学習評価にも反映させることが次に求められています。

例えば、下の表を見ながら説明しますと、支援学校の「国語」の学習内容に「いろいろな筆記具を使おう」という単元があります。個別の指導目標として「クレヨンやチョークやペン等を使って書く」ことが設定しています。そのための手だてが次に書かれています。そして実際授業を行ってどこまでできたかな？というのが「評価及び学習の様子」という欄に書かれています。ご注目いただきたいのは、先ほどの3つの観点、すなわち「知識・技能」「思考・判断・表現」「意欲・態度」を意識しながら記載しています。（わかりやすいように表の中では（ア）（イ）（ウ）と記号をつけています。（ア）は「知識・技能」（イ）は「思考・判断・表現」（ウ）は「意欲・態度」を意識した表記となっています。）

学習内容	目標	指導方法・手だて	評価および学習の様子
いろいろな筆記具を使おう (国語・書写 B書 くこと)	身近なクレヨン、 チョーク、ペン等 を使って書くこと に気づき、慣れ る。	興味・関心のある筆記 具を使い、楽しい雰囲気 の中で親しみがもて るような活動を設定す る。	(ア) 筆記具を手に取り、擬態語を発声し ながら教師と一緒に手を動かすことができ た。(イ) <u>チョークの持ち方を考えたり、</u> (ウ) <u>自ら絵に色を塗ったりするなど興味 をもって取り組んでいた。</u>

今回の「前期」の学習評価では、上記の表を参考にして3観点を意識した記載を心掛けるように教員たちに指示しました。しかし、3観点をきちんと書こうとすると、従来の様式の枠では字数の関係で書ききれません。全児童・生徒の学習評価を読ませてもらいましたが、教員たちはアイウの3観点を意識しながらも、短い文章の中でどう書けばいいのかずいぶん苦労しているなあというのが正直な印象です。保護者の皆様にも伝わりにくいですね。現在、3観点による学習評価がどうしたらわかりやすく記載できるのか、読む人にもどうしたら伝わりやすいのか、来年度に向けて新しい様式を検討中です。